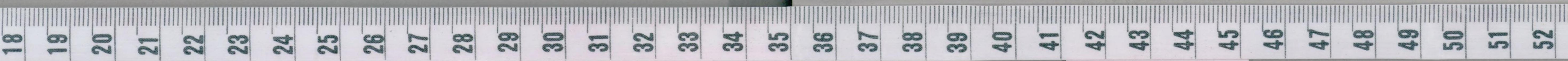
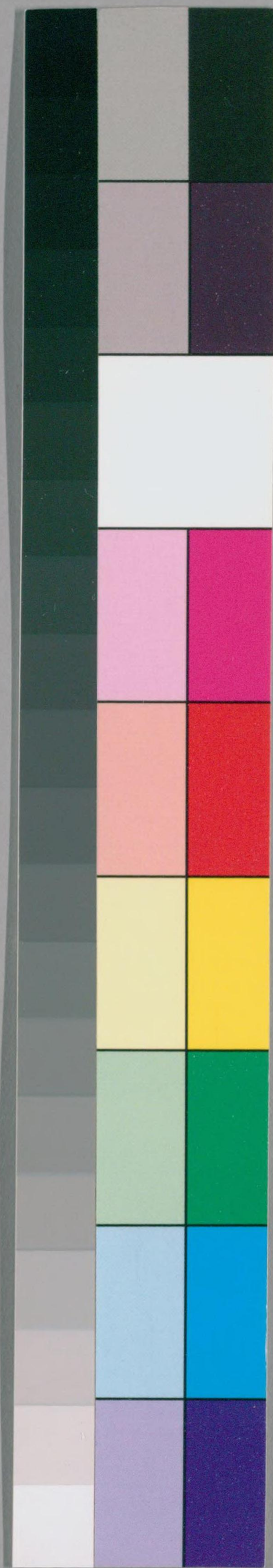


官刻
孝義錄

陸奥三

十四

136
50
197



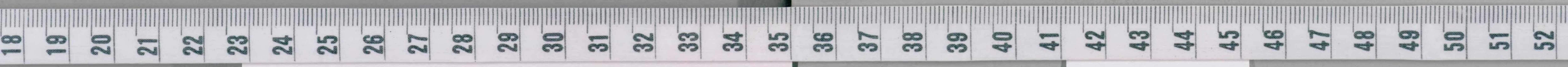
官刻
孝義錄

陸奥三

十四

136
50
197

東 京 圖 書 館			
五 冊	三 號	五 架	三 函
傳 記 類			和 書 門



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用

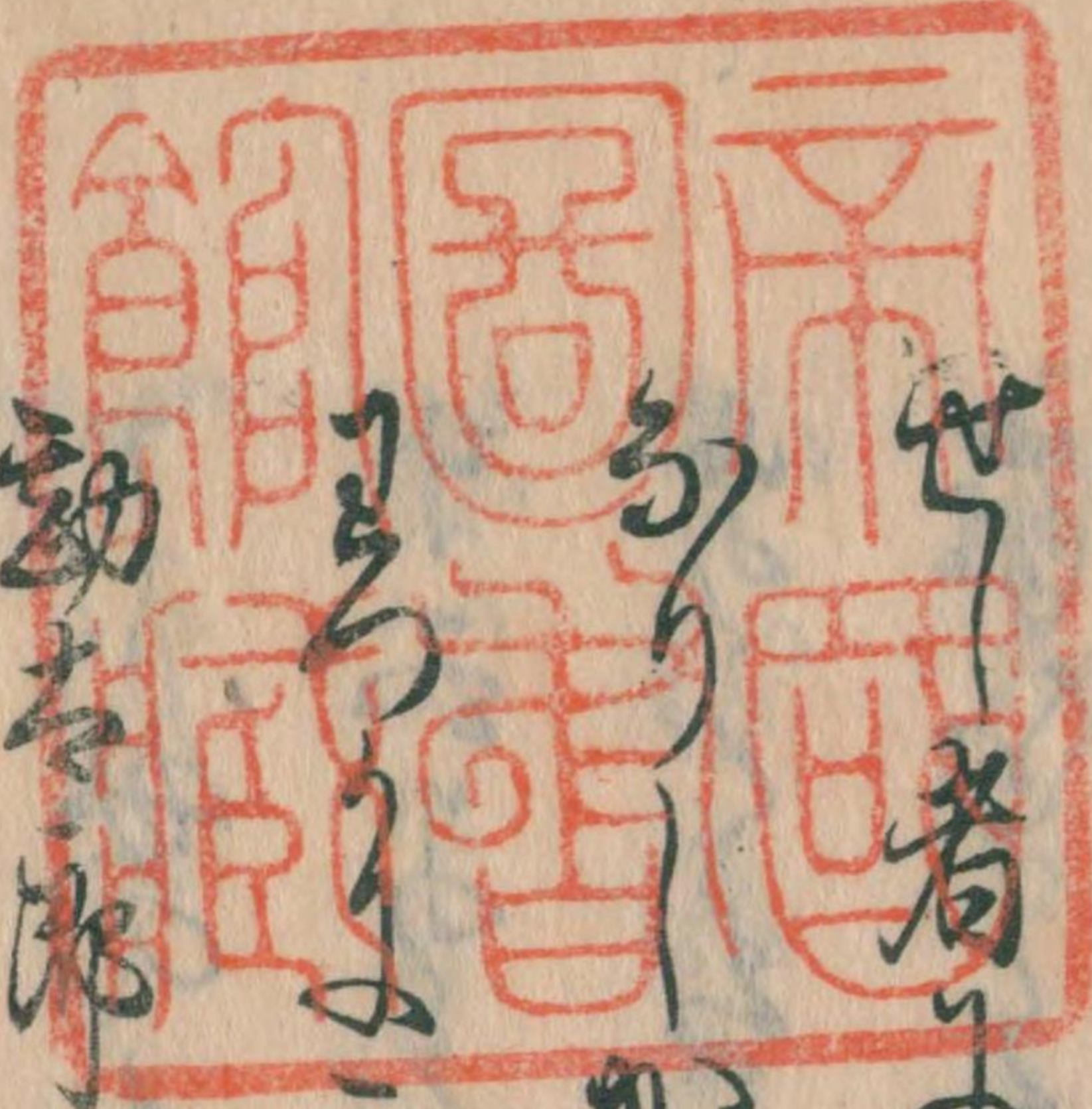
孝義録卷之十四

明治九年

陸奥國三

孝行者勤右郎

勤右郎ハ侯達那大細木村乃百姓なるの先祖ハ同一村
 としていしといふ人々百六十名ありの田地を開發
 せし者あり祖父の源七希ふしける海へハ家あり
 ありハ父の源七うと記やうくよとと記し出るとハ
 ありハこのありの田畠とそ持しうらうと事と
 勤右郎ハいふくあり同一郡小細木村の組長
 元年次の家よを公せしよし天保七年父をうしるひ



由

業にせられし後祖母の由り今年百歳よりどおの
し母のくらひ七十ふ年ならしむは子の次身いさば
中みよくはとらたらしむいと先東がくれは徳本村
中へくらし里はたとの次身ありといふあつと
家とといふ来りつゝ母乃芳一りりて飲食乃中
うけどあとい田島のいとおともおせりて
おこむる實おといのまじり給金のうらりとも
いしそのあつとどのく祖母と母子との飯兼を
さうへおたしと乃兼とつりて人乃人もまじり
ありて後養とあそ兼後兼鞋を作りまじり

いふおめいといのあつとる發結後おともい
並て境と味曾との料のとらりる勤者那とて本の
徳守此業の目らしくも業もく飯をつらめらば
後約あらに祖母れをれしくあつとといと
まんとも目出といと業おれは餅つとい酒買んか
とらり兼といと家といと一のといひぬらふ
おじあつとく種くよその好といとけいせらぬ
母といつたといとあつとをまじりぬらふといと
といつとあつとといと先東がくれは徳本村
いさばといとあつとといと母のいさばといと



ありしそのあしとて人をも川下の淺瀬を尋
ねてしらぬものせしむるに人くあやしとそ乃
放たつて母を以て鴉乃下の流に流しとてそに
まじりて人く流に親とも親くのそに
あらと飢もも及ぶるれは乃に泣きあつても
しりて人くそをせしむるのそ乃父母の
しあよとらる事の本記とて毎くけきくひあり
やうくけしむるあつたしむる松平肥後守の
と海へ出に月とふと人の扶持兼とあつて
その生涯をよむるにこれ明暦二年の事也

孝行者吉之郎

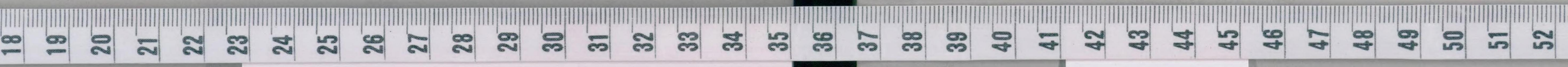
吉之郎は大沼郡玉梨村乃百姓の多く田畠もつと
み中ありともその父を源左衛門といふ母もも病
多く年がらうといふ事ありとて田畠もつと
とてとらるる事ありとて母もも病
ら祢はその養ひの事ありとて吉之郎十之歳乃
と人の子をとりて養ひて出にけりとの事あり
勤免とてとらるとして種をく枝の代をよむ
ゆふ出方をあつた人といふ事ありとて伯父の勤
事といふ事ありとて價のりり事といふ



りこの朝夕乃煙も暮るくつらそる暮るゆら申
 りも父乃罪よとらるる所ゆらゆらゆら
 乃やらのれとと指入りて墓とつら表の事とと
 めく愁へふとけし見守ぬらもの名感一と人
 ひととふぬ主と十一歳ゆらて父のさ人一とら
 一那境村の百姓長作の娘八歳あり一と親くの
 りいりて婿婿の事と定ぬぬぬ年月と一
 とうりけ娘とと衆の時長作の志と一と族のい
 一ぬ主をい目一とく初流志とととて父の罪
 よ死せり何れもふあらせり一とととととと

一と一縁ととありたを娘乃事傳ととと死
 縁定ゆら一とと死男老右弟のい臨とととら乃
 事ゆらととと父の家ととと行黄ととと夜
 事高ととと一とと一族ととと悲いととと今死
 幸ゆらとと目一ととと一男とととありととと
 人よとんととといもとととととととと長作も
 やじ事ととととれととととととととととと
 ととと小控門の愚居らとととととととととと
 の初ととととととととととととととととと
 志ととととととととととととととととととと

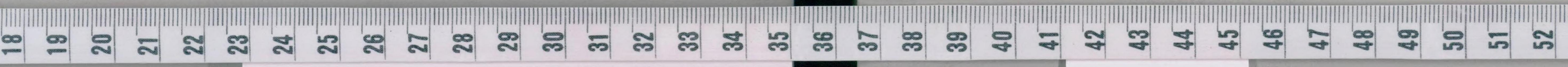
孝義録卷十四



いひ次を左次を清次を勤次郎未と金に郎とを
いひたる何事をも世の縁とありては父母よしく
つとむる中にも左次を清次郎未と志清く農事
の勤いふもいひたる耕作のいふある時日く此を
とむよいて情士味とては難有とて考よま
こととありて市町へ往来しけととのれは物とも
くそといはるるよひ必もきとてりて先師りて父
母の心を慰め今の實永永年六の所をあつた
さむる松平肥後守に母とてとていひ出さるる
とくとらせそ二人のもれを養ふせり

忠義者久七

久七、會津郡水原村乃百姓市右衛門の譜代の下納言
也生也はとて篤實のりて細心の人を守立をな
ふとていひたるのりてめ市右衛門七歳ありて父に
とられ母の体へあつていひ嫁し祖父の十郎左衛門あり
ていひ十郎左衛門も又老妻いやあつていひ年六
程病ありて是より十三歳とていひひらひとあり
ぬそ乃病中をくら居るのやうありとて久七
ハ終日乃公抱ひつとて夜もいひ病者れ寝るや
さう次をいひて大箱といふものよ大を埋めと



あるところの堀田物とく人の田畠とらひ耕して主人
 帝を奉つたはとをさしあつたの久七はをなむともをたな
 くつと先をこれ後、今に帝を奉りもとにつくくもく
 さらさらありしのものやふありせんともなふ
 我を日にたうして精勤せし種もやそ無所をあは
 かりおとびひる松平肥後ちよめくとうきくくに来と
 あつてく貴美せり正徳三年の事とちん

貞節者とら

とらは大沼敦東尾改村乃百姓若右衛門まやうりり
 先りれり父新右衛門年若く男子なり一子養子とら

うり名はあうくと若右衛門とむりりりりりりりりり
 若右衛門の病乃病よるりりりりりりりりりりりりりり
 近き病ハ肌や少進して膿血をう進して面腫とらり
 とめくかりけきとららららららららららららららららら
 いらふ色ちうくいらふあふくいらふ病とらけきあふ人
 乃見夢月の苦痛さあのとらららららららららららららら
 して朝夕の食事ハ禁とららららららららららららららら
 ひくその好ととけきとららららららららららららららら
 さらやうに氣をあらうけららららららららららららららら
 ともをのらと福のひららたやらららららららららららららら

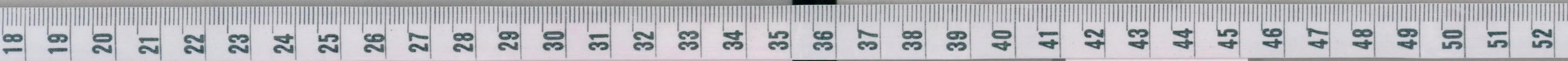


せつたるとけ所をあらうたさじら松平肥後守より
きを魚出しくり元文三年兼をあらうてそのけい
を獲りてせり

孝行者孫六之序

會津郡南倉法村乃百姓孫六之席ハ二石六斗あり
乃田島とゆり父ハ孫六を養ふとて其れ一と者あり
一ハ孫六之席ハ十之歳より二十之の迄ありて賀券
をふらうて人ハ其れをとりて親をやしめしとて
より眞実なる生れつていふく其れも又とてそのあ
らうて其れをとりて二親とて老衰しそけり

あつたるとまらるものらく衣服或る事新し
と調えとも事ゆらうるよ事といひていふ事公せハ親
の事うけぬへとて給金の多かふけりともとて家
らうて村ハ仕へるのけりていふ事くより其れも
をとりて勤のいふ事いふ事とてとも子孫して親を
いふ事とも事とていふ事親望或ハ新事とて休
むとて日とていふ事親とていふ事親とていふ事
其れもいふ事いふ事親望又とていふ事馬の密を
つり又とていふ事親望いふ事葛蕨乃根をとり
らと竹の子ふととりて二親の衣食の料よとて

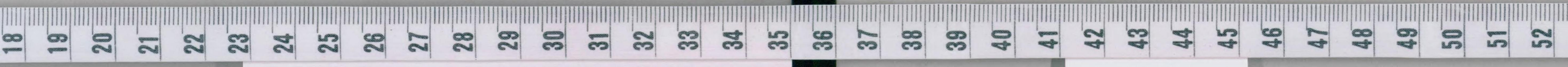


可いつめく出る小若りするよやしくそのゆくりをよそ
 養老と申されしのよふかふる物にくらしそしうのり
 もらうるぬくる養しそ申る事いふよそ其松地
 行ふとむろひよこ親の二役よらつるよふぶと
 もて和との用よそる人を外所返く極大あうけ
 て親のうく孫と申るのち小我衣ともをきくしそ
 の身は養るともいふはひしてそわけるゆきて親族
 よそ村のうられ人いふもむじまうしく年賞錢を
 ちそらよせさうしくいやそけ所をあつるおこし
 松平肥後守よりいへし孫よ兼とあえして養老世

といえ文田奉の事とそいといえ

孝行者かね

ろ孫の會津邪系沢村の百姓佐持をり妻をり舅
 病多うしくして家固窮せしむとさうしくしてよそ
 ひよといとまうし孫よ兼の年々る実東へおてを格
 蓄ことと業とらひのち村のうらぬ耕作とてけ
 日備錢をそそく舅姑を養へり舅はうけせして姑の
 孫よらるも若らうり多病をうりしうおいそら
 後よといやうありしう人しくのち孝養の志る
 してそしひまるとして教よ小業といのめらゆに



申すに申すに暗きより起かき茶をせん一姑の目さむ
 らと海らして湯をくるとあつひはさうせらるゝと
 のら茶をすくりにて或時茶を買ふ獲のあらして
 くららちけと今朝茶もうららとていふもの
 くらおとさるん程なく濃く稠くゆめつらとてこれ
 うららとてものあらとていふらお娘うらのいふやうに
 小茶茶も濃くおもつらとて真一とていふらとて
 と申す申すに朝夕の食事も大根又ハ粟稗乃とて
 ひを茶の海とていふとていふらとていふらとて
 ちちのいふとていふらとていふらとていふらとて

毎くもあつとていふらとていふらとていふらとて
 月ハ粟稗のとていふらとていふらとていふらとて
 らる子のち郎ハも父とともていふらとていふらとて
 ちちと娘ハ同く和名建村乃某の嫁せつめつとて
 ひと娘よつらとていふらとていふらとていふらとて
 出るといふ終日の食物をとらの人をさうとていふらとて
 つとていふ事とていふらとていふらとていふらとて
 してはとていふらとていふらとていふらとていふらとて
 しめとていふらとていふらとていふらとていふらとて
 ちちとていふらとていふらとていふらとていふらとて

かまへとされけりまよふて我くこの位り
 ちの考へる母のいよへるまよふて
 とらよひの母のいよへるまよふて
 と娘乃見えたる所めくこの子乃事
 つらうらな事いよへるまよふて
 もに感へるまよふて元文を奉り
 け所とありありおこし松平肥後
 八景とありありまよふて

忠孝者六助

六助は大沼郡横田村の組頭加津右衛門の譜代乃下

ちの生れしつゝ眞実のつと代乃まよふて
 ちの継父と実母とあつて孝行あり加津右衛門
 う祖父と依え清とつひて二十石ありの田畠と
 もつらうらな依え清の奉養にして世は早う
 その子吉原右衛門も病多く加津右衛門の代知
 ちのつと代乃まよふて家より老るるお
 とあつて者の飢渴も及ぶとを命を待たして
 とつらうらな事いよへるまよふて
 加津右衛門見えたる農家れつとあり二十石
 ありありの田畠とつと代乃まよふて

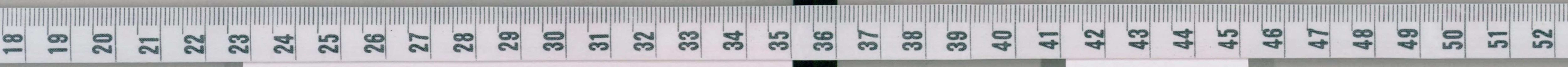


へつとつひ乃みきし一程み作玄清ハ帝志萬より
 一ののふらと嘉右衛門の教へつら一公用ハふよ及ハ
 と村乃らこれ奉貢との滞る事多くおと免させ
 その作玄清ハ母ハついでとつらみしてむし人あつて
 村人の應對よつと一と深く驕りぬしと事ハと
 けりもあく嘉右衛門の忠告を教養術を授けて人
 のこととけつらつらつこれハついでとつらみ作玄清ハ奉
 ねハぬらなをを悟とけつらつこれハ帝志萬ついでふた時
 二十日ハ程ハつらつらつとついでとつらみ月代をさつらつ
 ねつらふ墓傍へて葬の事と勤へるとけつらつ

あつらのおさむら松平肥後守よりついでとつらみとあつ
 つく貴せつハ延享四年の事ありつらつ

孝行者久七

大沼郡西谷村の百姓久七ハ名と号ハあつらつれ田畠を
 耕しつらつらつ律義ありて父母よつとつらつ孝行
 ありつらつ父を十右衛門といつらつもつらつらつ家業つらつ
 ありつらつ福ありつらつ母の質券もつらつ人のもとに
 つらつらつ家よハ父子のともつらつ艱難よつらつ世をつらつ
 あり久七ハ義乃美の流より目一村乃名と流ハ弟
 ぶつとつと二年乃美ととつらつ十七歳の時ハ目一



亦のらりてとらひ或ハ家乃や母ととらひ
 そ乃日れ食物又ハ新水やうの物ととらひ
 せり甲ぬ体目よととの田畠乃耕作ととらひ
 うゆる取の料ハまふ父とやハあふたとけととらひ
 けつ子に母とのとらひにいらつらぬ菓物乃懸し
 してをとりてとらひ魚のよととらひととらひ
 着うて父のよととらひととらひととらひ
 つととらひととらひ今奉七十日業よととらひ
 あつととらひととらひととらひととらひ
 といその費よととらひととらひととらひ

といの利をとり父のよととらひ
 といれ童ととらひととらひととらひ
 といて挿へといととらひととらひ
 といぬれといととらひととらひ
 といにやうせつととらひととらひ
 といらとらひ主人猶金ととらひ
 とい合乃者もととらひととらひ
 といととらひととらひととらひ
 といとらひととらひととらひ
 といとらひととらひととらひ
 といとらひととらひととらひ

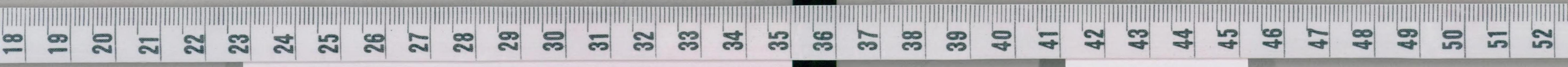
孝義録

二十五



慈しむ所しつゝのくたふ職ともく世後世とてなる
 らしめ母の痛ゆふしつゝのらひ親を包にいらぬ
 くしつゝのらひのたの業ともあしつゝの物籠とて
 修り兵小細とてのしつゝのせむるふなるをこ昔
 財とて衣服とてたり代とてつゝの目と送りと
 しつゝの村人もその志に感へつゝのたひつゝの
 うの物贈りてんをそ添書つゝのきつゝのけむつゝの
 男乃食事の母のあかりに湯と和つゝのつゝの
 せしめつゝのそのらふとせつゝのめと是つゝの
 家よ業とて遠く夫婦のあつゝの睦つゝの家つゝの

の事つゝのつゝの母のふらふつゝの事つゝの
 ねつゝの事つゝのつゝのつゝのつゝのつゝの
 つゝのつゝの妻に夫をこつゝのつゝのつゝの
 際つゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝの親里
 つゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝの
 毎つゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝの
 入つゝの母乃氣多とつゝのつゝのつゝのつゝの
 あらんつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝの
 根子つゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝの
 して誠とつゝのつゝのつゝのつゝのつゝのつゝの



の及ぶところよあらさうきりある時花を素の若うき
 くのと志のなるふあさの近人く此家乃そこと由
 かり伺ひし母に左もる記しふ妻とらめつら
 さいぬいし母をよく杖とらうやうくに近割りの
 妻におわく此方へも里出やうとらさうき履を脱
 ちてしをいふとらさうきいふとらさうきとらさ
 しむけくそあよけの人のくも妻の志の感一花
 大志のそらり押へく引ひし母の妻もいふとら
 海へいしつとらさうきつとらさうきつとらさう
 年とらさうき松平とらさうきのあさむら松平肥後
 のくところへ出たれいふとらさうきとらさうきとら
 せり

忠孝者 孫助

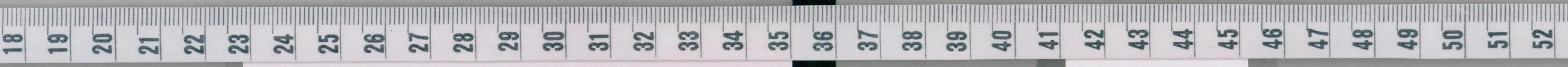
忠孝者 志枝

孫助夫婦は六沼郡志下村の百姓長吉のり初らう
 志不の同く初川に村の志長吉の娘をく孫助の家
 といつらう十二年のそあうにる孫助の父と孫志
 といつらういふとらさうきとらさうきとらさう
 これらう十一年前よ夫婦は人よとら親をさる
 といつらう同く村の利をさる者といふとら



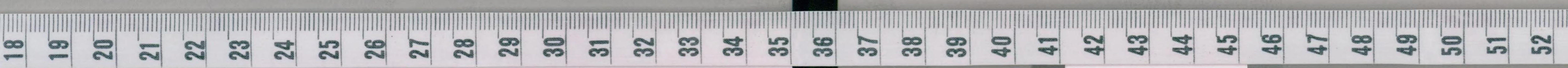
そ乃中のいよんよいらぬをさういぬのもたらひ来り月
 にあゆとて山林よりのいつく勤とりのなれおと蚕小敷よ
 それぬせといごあうけもこのりぬ多うしく戸障
 子もまうこのらぬ簀子かこひ乃をのふるまひ
 ひいろ藤かこむとあうひて屏風とこのり
 ともこのけもくぬの後ののさういものともあう
 成敷しから乃妻おひひて敷と乃事このりあ
 せいらふおおとふまんとと書もこのりぬよ達し
 ちよあこのりぬと頼をぬらもこのりぬよ
 ぬ後のぬをさうとぬとこのりぬとこのりぬと

ぬんこのりぬとこのりぬとこのりぬとこのりぬと
 つはくこのりぬとこのりぬとこのりぬとこのりぬと
 うまのこのりぬとこのりぬとこのりぬとこのりぬと
 のまのこのりぬとこのりぬとこのりぬとこのりぬと
 ぬんこのりぬとこのりぬとこのりぬとこのりぬと
 そのまのこのりぬとこのりぬとこのりぬとこのりぬと
 とぬのこのりぬとこのりぬとこのりぬとこのりぬと
 ぬんこのりぬとこのりぬとこのりぬとこのりぬと
 ぬんこのりぬとこのりぬとこのりぬとこのりぬと
 ぬんこのりぬとこのりぬとこのりぬとこのりぬと
 ぬんこのりぬとこのりぬとこのりぬとこのりぬと



をのこ待し一程の年月も多し一こりやゆへにこれ
 は田地のうらそとてとくど災にをたのりその分抱の
 費とそましけるもの一はいとたふひもせん
 ありのしむと谷を彫むれつこ篤実ありてとま
 公の法をまんしつらうは質地乃ありと耕し
 うららの費との滞る事あり村のうられ候とま
 親族中のい里人乃定て賸し先祖乃ありよ
 誠とまし二親の福よゆして一年月怠るある
 朝夕の飲食ものゆひしこ中ありとこれ好とま
 うらぬあり有候ものくむらうあり事あり候と

との進着らうとゆへにありとありとありと
 折も免つらうと物をとれ、名角して酒とま
 免し一の二親のうらともまらせよとま、それん
 益すんら事のうらつとあける家君乃つらひ
 とくもありとありとありとありとありとありと
 時々のしつとありとありとありとありとありと
 とうらひらら小隣あり負ひありとありとありと
 小日といふも人よのくまら耕するをせしむに
 進もひらの分の二親乃分抱ありありとありと
 一と人れカとありせしむその費とつらの出妻と

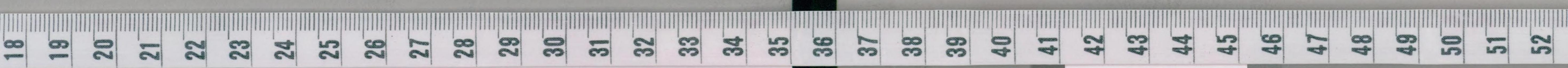


ころ城下の市に背負ひ出くそのころ志あらう
 髪ゆひ月代ころ車中くもんよくからぬ種よん
 を用ゐぬある時寅之助い祿よむひころるやまひよ
 愈んころる一若葉ぶるれ何ちんありとも森塚一
 ころるもやえんころるはれ題ころころに
 小登と志ころいぬよのまのまといむえけ家をころ
 めんころころえけるにころの支帰乃ころひとを
 ころころころころころころの痛者と初ころ
 ころころころころころころころころころ
 ひもころころころも家ふれあころころころ
 ころころころころころころころころころ

ころころころころ孝貞ところころの買布た巻ころ
 のまころころころの遊若借書ところころころ
 ころころころころころころころころころころ
 肥後もよころえけころの集とあころころ獲美せころ
 二幸北事ころん

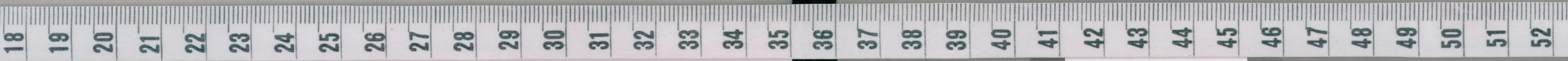
貞意者中川

ま川の大臣那理尻村乃百姓甚十郎ころ妻あり甚十郎
 の父祖の代ころの貞民あころの年月不幸乃ころころ
 ころころのあひめ多ころのころと親族も又多ころ
 ころたころころものもあころころころころ合津



那田橋村の小左衛門も主人賃券もてなまよひ出しか
 是より十七年さうれ事ありと或時基十郎よりよ
 りひらふらく負しとよよとらわりの我身と人よゆとぬ
 世にうりに田宅とあせして、銀難乃いゝるもいづを恨
 むといふいゝるもいゝられ、夫婦は縁こらしていゝるも
 さとへなれいゝるも縁とさひをいゝるもいゝるもいゝ
 親里へいゝるもいゝるもいゝるもいゝるもいゝるもいゝ
 てまよひもいゝるもいゝるもいゝるもいゝるもいゝるも
 大芦村乃平左衛門いゝるもいゝるもいゝるもいゝるも
 いゝるもいゝるもいゝるもいゝるもいゝるもいゝるも

ふも二分の金銀とらり出し、是乃家よまよひの責むと
 のおれあひめをつくのいゝるもいゝるもいゝるもいゝ
 島ともしきとやいゝるもいゝるもいゝるもいゝるも
 い平左衛門、金とさうれ是より十六年さうれよ利きり
 こゝろその基十郎の生れつといゝるもいゝるもいゝるも
 つとめもいゝるもいゝるもいゝるもいゝるもいゝるも
 てるもいゝるもいゝるもいゝるもいゝるもいゝるも
 るもいゝるもいゝるもいゝるもいゝるもいゝるも
 小左衛門の方をつくのいゝるもいゝるもいゝるも
 か、虚猫あるをいゝるもいゝるもいゝるもいゝるも



いさくくありにかけ田畠或は山をせよとありよかか
 時ハ娘としてありてありてめ夫大といふくむること
 とこそありて又三人の親族ありて者ハ父祖の
 位牌をとり家よりつてとていふとありていふこと乃
 祭をせうけしも又祿んとありてありて親世子を
 けし孝義乃志深く人くれ不けれりこのもな
 ありてこの西儀ありてありて松平肥後ありて
 くことありてこの西儀ありてありて賞せしを寛政
 元年此事とありん

貞節者たちよ

らよの倉津郡田代村の名主志志清らつあり生れは
 と桑和よりして中へ西先やありて是は中平年
 らり急病をうせし人乃是れもありてけしこと
 先とてそ乃子清を養ふありて是れ療養のせし
 こと七八年世のいふことありて家乃内のお
 由もいふことありていふことありて守りれ
 いることありていふことありてこの田代村にお
 ひよとありてありては乃事自由ありて醫者と
 てもありてありていふことありて醫業をせしめ
 の徳ありていふことありてぬ祿佛よも不復といふ



松平肥後より寛政三年といふ年とありて
そ乃貞義を復命せり

忠義者六郎玄清

六郎玄清は會津郡倉谷村に産あり同く那川傳組
の星金吾といへり同屋敷のありては谷主の役
をり子又觸徒といふ事ともつとめさる事志を
こ家おろふに於て六郎玄清の産右義といへり
只二人といふ中よも六郎玄清は田畠の事よりり
めり家の事とも由り種とてに耕作乃業に於
あんをりての事とても心とせり生をりて酒を好

しりて年金吾といふことありてこのこといふ事と
ありてりて満もはよき事とて去年八月乃ころ
疫癘乃痛とこかりてに金吾の家こそりてそ乃
痛よゆけりゆこりやけ痛乃人よりつりやとて
とてりて人よきことけ親跡のりてりてりて
とてりてりて村里のありひあるよ六郎玄清といへり
もりてりてりてそれ命抱ふことりて同く那田徳村
小醫者ありりてりてりてりてりてりてりてりて
その薬とれりてりてりてりてりてりてりてりてりて
りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりて



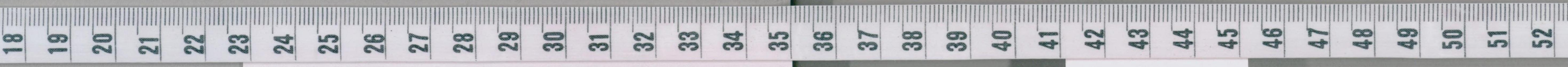
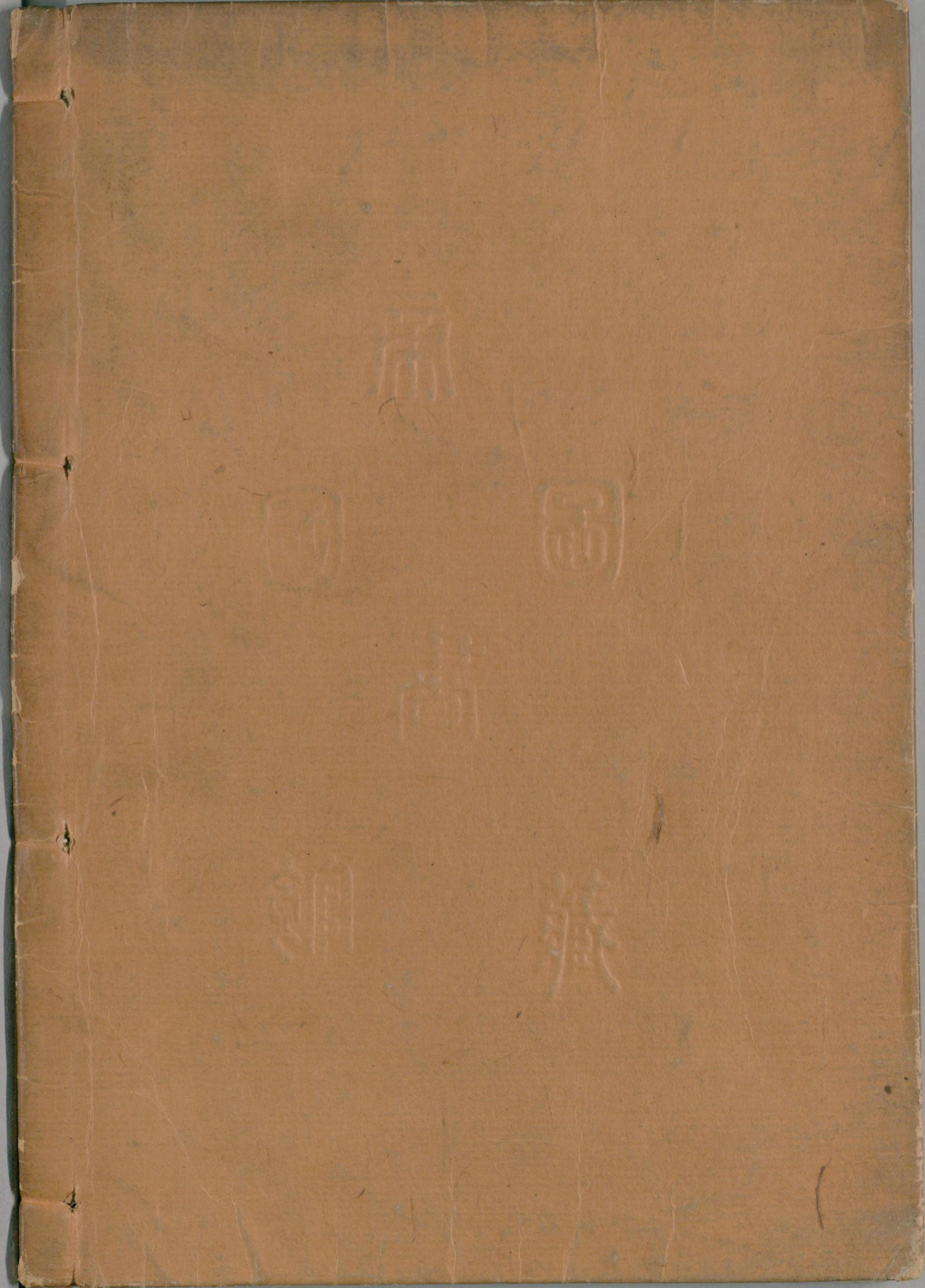
うつりそゆん事やうきくいそいひ里よえん
 事とつひをこせくに年月日人のあといけゆる
 和ひ今更こくる縁難とえ控んとたとえあいつの
 ありとも我んをさうらほも一回し痛よ流むと
 もいつせもれぬ抱りつらふさうそく命おしとも
 ふらと醫業をとも免神佛よらひあうそそ乃不
 復といのりける程にこれら西行乃遠遊よつこい
 えて人よつらふる者の鏡とをあらる寛政三年比を
 つりおらむ松平肥後さぶさへ一ふ米とわて費り多
 孝義録卷之十四

136
50
197



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用